

# 巻頭言



常務取締役 越後 勇吉

阪神・淡路大震災から2年が経ち、あれほど甚大な被害をもたらした大震災も、被災体験が

なかった者にとっては時間の経過とともに、その被災の深刻さが脳裏からつい薄れがちになってしまう。そういった時期に出す今回の特集号は、震災の重大さを再度喚起する役割と、今一つは鉄鋼会社の社会的な役割を世間に広く知っていただき、その責任を引続き全うしていくためのものとした。これまで日本の社会基盤の整備に使われてきた建設資材は、土や木からコンクリートや「鉄」にその主役交代が進んできているが、このような大地震に遭遇してみると、残念ながら未解明な部分も多く、また使われ方も不十分であったと言わざるを得ない。

（本誌編集長 越後 勇吉）